

花と緑の銀行だより

223号 2022.5



氷見市海浜植物園 シーサイドパーク
(写真：氷見支店)

目次

- ・花と緑の提言 氷見市の花とみどりのまちづくり（氷見支店）・・・・・・・・・・ 2
- ・活動事例 朝日町の緑化推進活動について（朝日支店）・・・・・・・・・・ 3
- ・技術講座 富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン ～ ヒメカンゾウ ～（職藝学院 渡邊美保子）・ 4
- ・緑づくりコーナー 庭木に利用する樹種の特徴と管理 ～ ハナモモ ～（樹木医 西村正史）・・・・ 5
- ・とやまの花壇 ～ 南砺市 桐木花街道 ～・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- ・この人あり「素人の強み」常識にとらわれず・・（高岡支店 野村地方銀行 神代 孝）・・・・・・ 7
- ・お知らせ 6月～8月の主なイベントなど・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8



氷見市の花とみどりのまちづくり

花と緑の銀行 氷見支店長
氷見市長 林 正之

新緑の輝く季節になりました。日ごろ皆様方には、花とみどりのまちづくりの推進に格別のご理解とご協力をいただいておりますことに深く敬意と感謝を申し上げます。

氷見市は、富山県の北西部、能登半島の東側付け根部分に位置する、人口約45,000人の市です。海越しに三千メートル級の山々を望むことができる世界でも希少な場所とされています。



写真1 氷見市中心部

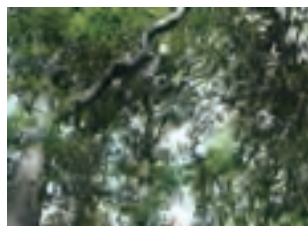


写真2 タブノキ

富山湾には対馬暖流が流れ込むため比較的温暖な気候で、海岸近くにはタブノキ（つまま）などの暖地性植物が豊かに分布しています。

「自然のいけす」と称される富山湾では、新鮮で豊富な魚介類が水揚げされますが、氷見で水揚げされるブリのうち一定要件を満たしたものは「ひみ寒ブリ」として全国に名をはせています。そのほか、氷見牛、稲積梅、ハトムギなどのブランド力強化や新たなブランドの育成により、食を核とした6次産業化の取り組みを進めています。

昨年3月には、氷見の「持続可能な定置網漁業」が、日本農業遺産に認定されました。

花と緑の施設として、「氷見市海浜植物園」、「あいやまガーデン」があります。あいやまガーデンは、雄大な海越しの立山連峰を望む小高い丘に広がる約4,000平方メートルの西洋庭園です。バラ園には、約200品種2,500本のバラが植えられ、四季折々に変わる花々を一年中楽しめる場所となっています。

氷見市海浜植物園は、“緑花の拠点”、“木育の拠点”として特徴豊かな施設となっております。令和2年度に施設のリニューアルが完了し、令和3年度には来園者が年間7万3千人を超える施設となりました。

その海浜植物園の“緑花の拠点”機能としては、グリーンキーパーの方々をはじめ地域で緑花活動に取り組んでおられる方々への花苗等の配布や花壇造成、土壌改良などの支援を行っています。また、年間を通じた園芸教室として「花と緑のふれあい学校」や花と緑のイベントとして「ひみ花とみどりのフェスタ」を開催しています。また、施設内においては、ご来園いただく方に花と緑を楽しんでいただけるよ

う季節にあった植物を園内各所に配置し、日々、変化のある施設として運営しているところです。



写真3 氷見市海浜植物園

「忍者ハットリくん」や「怪物くん」などの作者である藤子不二雄[㊤]先生の出身地であることから、原画等を展示する「氷見市潮風ギャラリー（藤子不二雄[㊤]アートコレクション）」を中心に、まんがを活かしたまちづくりを進めている市街地においては、花壇を造成できるスペースがないことから、商店街アーケードの柱にハンギングバスケット、歩道にキングプランターを設置し、地域住民の皆様にも維持管理のご協力をいただいています。

農道・河川においても自治会、老人会といった団体にご協力をいただき、まち・山・川において、その地域ごとに花とみどりのまちづくりを推進していただいているところです。



写真4 市街地



写真5 農道への植栽

このように、氷見市における花とみどりのまちづくりは、中心的な施設による支援と地域住民との協同により成り立っています。今後、こうした取り組みの継続には、次代を担う指導者、中心人物となる方々の発掘と育成を行っていくことが重要であり、そうした小さな活動の積み重ねが持続可能なまちづくりへとつながっていくのではないかと考えております。

最後になりましたが、皆様のご協力のもと、潤いと彩りあるまちを目指していきたいと思っておりますので、今後も変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

朝日町の緑化推進活動について

花と緑の銀行 朝日支店

泊三区地方銀行頭取 瀬 沼 忠 男

私が担当する泊三区は、街の中心部より南東に広がる地域で、南の山側の一部を除いて昔からの北陸街道沿いで、狭い路地が多い住宅街です。そのため花壇を備えた公園のような場所はほとんど在りません。唯一私の家の近くにある沼の保公園に花壇が整備されており、約95㎡を4区画に分けて配置されています。この公園は、土地区画整理事業の際に整備されたもので、当時の町内会で維持管理をするということで設置されたようです。その時に地区の老人会が花壇の世話や園内の草刈りなどを引き受けることになり、以降現在まで続いています。この公園は、新設された町道とあいの風とやま鉄道の線路に挟まれており、町道側に3区画、線路側に1区画の花壇が設置されています。近くには小学校があり登下校の子供たちの癒しとなり、線路側はえちごトキメキ鉄道が泊駅に入線する前の徐行区間となっており、乗客の癒しになっていると思います。また、公園中央の広場ではよく子供連れの親子が来て遊んでいます。

花や球根を植えるときは、老人会の会員にとって貴重なコミュニケーションの場となっております。ましてや、ここ1、2年は新型コロナウイルスの蔓延で日帰りハイキングなどが中止となっているので、なおさらのようです。

【作業・管理】

花壇の土起こしなどの重労働は、男性会員減少と高齢化のため町内会の役員さんの助けなどを借りて行い、植え込みはなんとか会員で行っています。夏場の水やりは、子供たちのラジオ体操が行われる期間は児童会の親子の方をお願いをし、それでも足りない時は私や老人会の有志の者が追加の散水をしています。また花壇は、すべて奥行が1～1.5mほどの細長いものなので、ボリューム感を出すのが難しいです。



写真1 植え込み作業

【今後の課題】

老人会会員の減少と高齢化のため、花壇の維持管理が十分できなくなってきており、いずれ町内会への移管も視野に入れなくてはならないと思います。また、植え込み数を減らすため、宿根草を増やす事も必要ではないかと考えています。



写真2 沼の保公園の花壇

《朝日町からのご案内》

舟川べりの桜並木は「あさひ舟川春の四重奏」として広く知られています。4月には、舟川の両岸約800メートルに280本の桜が咲き誇ります。この桜並木は、地元の舟川新桜並木保存会の方々によって昭和30年代の前半に植えられた桜が成木となり、今では県内外で名の知られる桜の名所となりました。また、かがり火でのライトアップも実施され、幻想的な夜桜も訪れる人々を魅了しています。桜の開花時期に合わせて、毎年同地区の方々がチューリップや菜の花を栽培されています。

開花時期がうまく重なると残雪の北アルプス連峰、桜並木、チューリップ、菜の花による四重奏を楽しむことができます。今年も、県内はもとより全国各地、海外からも多くの方に訪れていただき、より一層賑わいをみせています。



あさひ舟川 春の四重奏

富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン ～ 40 ヒメカンゾウ ～

職藝学院

教授 渡 邊 美保子

ヒメカンゾウは、ニッコウキスゲによく似たツルボラン科ワスレグサ属の宿根草です。ヒメカンゾウは高さ40cm程度と小型で、花茎は斜めに伸び葉の高さを越えることはありません（写真1）。5月初旬から開花します。ヒメカンゾウは、まず、外側の3枚の花びらを開きながら内側の3枚の花びらを開いてゆきます。外側の花びらの裏だけが紫褐色で、表は黄橙色です。内側の3枚の花びらは表も裏も黄橙色です。そして内側の花びらの幅は外側よりも少しだけ広くなります。真上から見ると黄橙色、横から見ると黄橙色の花びらが交互に重なり合います。元気をもらえる花の色なのですが、開花すると翌日にはしぼんでしまう一日花です。



写真1 ヒメカンゾウの花。5月中旬。日当たりを好む。
太陽に照らされると花びらは黄金色に輝く。

ヒメカンゾウの芽出しは、3月初旬です。緑色の平べったい三角のツノのようなものが地面からたくさん突き出てきます。しばらくすると、外側に湾曲した2枚の葉が現れ、翌日には3枚になり、4枚、5枚と増えてゆきます。まるで着物の衿のように互い違いに重なっているように見えます。葉がひしめき合ってくる4月中旬になると、その中から緑色の蕾を持った茎が、葉に守られながら出てきます。やがて緑色だった蕾は、太陽の光をたくさん浴びて茶紫色に染まりふくらんでゆきます。最初の蕾が開花すると、翌日にはしぼみ、2つ目の蕾が開花するのに十分大きくなっていれば、その翌日に開花します（写真2・3）。不思議なことに、2つ目以降の花は最初に咲いた花よりも少し小さくなるようです。一番花には、かなりの

エネルギーがそそがれているのかもしれません。



写真2 ヒメカンゾウの
一番花が開花。
5月中旬。



写真3 写真2の翌日の様子。
一番花はしぼみ
次の蕾が開花。

1株のヒメカンゾウからたくさん花茎が立ち上がって開花しますが、1本の花茎に2つから4つほどの蕾しかつけないため、見ごろはほんの数日しかありません。一番花が咲いて10日程過ぎた頃には花の姿はあとかたもなくなり、葉だけが残されます（写真4）。これは、しぼんだ花が花の付け根からポトリと落ちてゆき、花茎だけになるからです。花が終わった後の姿を長く残さないヒメカンゾウに、散り際の美学を感じてしまいます。



写真4 5月下旬。
ヒメカンゾウの葉。
ゲンペイコギクが
葉の周りを囲んで
咲く。



写真5 9月初旬。
ヒメカンゾウの
枯れ葉はゲンペイ
コギクに隠される。

おすすめの組み合わせは、ゲンペイコギクです。ゲンペイコギクは、ヒメカンゾウの花の後を追うように咲いてくれます（写真4）。

8月になるとヒメカンゾウの葉が枯れ、空いたところは常緑のゲンペイコギクが隠してゆきます（写真5）。

庭木に利用する樹種の特徴と管理

～ ハナモモ ～

(一社)日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村正史

春の代表的な花木といえばサクラとウメであり、全国各地には有名な名所がたくさんあります。ハナモモもこれらの花木に匹敵するきれいな花を咲かせますが、残念ながら有名な名所となると極めて少ないようです。

1 特徴

ハナモモは、花を觀賞するためにモモ（バラ科サクラ属の落葉小高木、原産地は中国）を改良した栽培品種の総称です。

土質は特に選びませんが、水はけのよい肥沃な土壌と日向を好みます。実もなりますが、食用のモモと比べて小さくて苦味があり、食べられたものではありません。今回は代表的な4栽培品種を紹介します。なお、これらの写真を撮影した富山県中央植物園には、この4栽培品種を含めて17栽培品種51本のハナモモがあり、4月上旬から下旬にかけて觀賞することができます。

・寒緋桃（写真1）：花は八重咲きで、花の色は

最も濃い紅色です。日本の気候に適しており、公園や庭に植えられています。

- ・菊桃（写真2）：花はピンクの八重咲きで、先のとがった細長い花びらが特徴です。この特徴が菊の花に似ていることからこの名前が付けました。
- ・源平枝垂れ（写真3）：1本の木に白花と紅花、紅白の絞りの3色を咲かせます。
- ・寒白（写真4）：花は八重咲で、色は純白です。

2 維持管理

樹形を整え、花を数多く咲かせ、木を大きくさせないためには、花後なるべく早い時期に花の咲いた枝の基部の2～3芽を残して剪定します。8月頃に来年の花芽ができますので、それ以降の剪定は、枯れ枝や重なった枝を切り除くだけにします。ひこばえや幹から直接出る枝は、見つけ次第切り除きます。病虫害対策はサクラに準じて実施します。



写真1 寒緋桃



写真2 菊桃



写真3 源平枝垂れ



写真4 寒白

とやまの花壇 ～南砺市 桐木花街道～

富山の各地域で、皆さんが丹精込めてお世話されている素晴らしい花壇をご紹介します。花とみどりの癒しのスポットを、是非、ご探訪ください。

1 花壇の特色

南砺市の福野と福光の中ほど、小矢部川沿いに「桐木花と緑の推進協議会」がお世話をしている「桐木花街道」があります。田園越しに白山山系の里山を借景とした心落ち着く花の道です。2000年国体の際に、選手を花で迎えようと花の道づくりが始まりました。

約200mの花の道は、毎年、4区画に分け、それぞれ草種を変えながら育てています。道づれに草種がうつろい、飽きさせず、また、管理作業を容易にする効果もあります。昨年度の草種は次の通りでした。

第1区画：ニチニチソウ・ブルーサルビアでさわやかに、自家産のエンゼルストランペットとダリアを配置。第2区画：メランポジウム・インパチェンスで明るく。第3区画：道幅が狭くトレニア・マリーゴールドでひっそりと。第4区画：オーシャンブルーで高さを出し、ペンタス・コリウスなど草種を多く。



写真1「桐木花街道」南北200mの花の道です。2021.7月末
上：中央から南を望む 下：北端から望む

2 活動概要

(1) 取組みと工夫

会員は7人で、定植時などは自治会の協力を得ますが、散水は当番制で1人作業とし、他の手入れは全員で行っています。少人数で会員が高齢化していますが、工夫をして、やりくりしています。

・春先には、除草剤散布により初期雑草をたたき、

定植後は堆肥マルチを実施し、手作業による除草はほとんど不要となります。堆肥マルチは、水持ちの向上にも効果があります。

- ・施用する有機物は、早期の肥効が期待できる鶏糞を主体とし、化成肥料は元肥のみとしています。
- ・水やりには、電動ポンプを設置し、ホースを全長に埋設して散水しています。水の届かないところは柄杓を使つての人力となります。
- ・アスファルト舗装の道路沿いを利用した花壇のため、花壇の幅は1mありません。そのため、用水路側には枕木を敷き並べて嵩上げし、道路側には割り竹を手前に仕切りとして並べて、有効土層の確保と雨等による周囲への流亡を防いでいます。枕木や竹は、田園の景観に溶け込み、優れものです。
- ・毎年、6月に全員で山から切り出す竹は、花壇の仕切りとともに、支柱や杭、さらには手づくりプランターとして活用しています。冬季の除雪のため晩秋に撤去が必要となりますが、得難いものです。



写真2 工夫の数々

左上：枕木の仕切り

右上：竹材を仕切り、支柱、囲いなど、様々に活用。アクセント、立体感を醸成。

左下：散水ホースを全長に這わせ、200mの毎日の水やりも1人で担当。

(2) 花壇づくりへの思い

定植時は自治会役員らが協力し、公民館横の花壇は児童会の皆さんと一緒に定植します。また、高齢者サロンでの寄せ植え体験なども行っています。20年以上、少ない会員でやりくりしながら花づくりを継続してきましたが、地域になくはない花の街道になっていると自負しています。

「いいがになったね」、「きれいやね」と言って声をかけられると本当に嬉しく、また、なかなか思い通りにならないからこそ、きれいに咲いてくれると、やはり嬉しいものです。

早朝のウォーキングの方、デイサービスの皆さん、今年もお待ちしています。

(以上、桐木花と推進協議会代表 丹羽善雄さんに、お話を聞きました。)

●花壇の概況

- ・規模 桐木公民館前横の道路沿い、約200m
- ・見頃 7月～10月
- ・所在地 南砺市桐木 教応寺が目印です。

「素人の強み」常識にとらわれず・・

野村校下花と緑の推進協議会会長

花と緑の銀行 高岡支店

野村地方銀行 頭取 **神代 孝**

花緑との出会いは全く偶然から、経験・知識とも皆無の身に、昭和61年居住地である上石瀬で自治公民館付属の多目的ホール建設時に、建物横に畳数枚分のスペースができたことから始まったといえます。

何か植えてみようかとの単純な考えから、チューリップの球根等を植え込んでみました。30代から40代の若いカアチャンを含めた自治会役員の行動でした。新地であったことが幸いし、花を観る喜びを感じた思い出があります。

平成16年には新規取得した140坪の公民館駐車場の半分を花壇用地にあてる事としました。この時には、幸運にも各方面からの廃材を集めることで必要経費「0」に。カアチャンパワーの協力も得て新しく花壇を造成しました。結果、庄川堤防越しに、劔岳から薬師岳の立山連峰を借景とした自慢の花壇が出来ました。地区住民の憩いの場になることを夢みて、花壇の名称を「植留花夢」(ウェルカム)とし、新造成元年から花壇コンクールに応募しています。野村校下の花緑は、なるべく宿根草・多年草を大切にするとともに、差し芽や挿し木等で増やして楽しんでいます。

その後、育苗施設を持たずに全く屋外でのプラグ苗育成にも挑戦、今も継続して実施しています。校下33自治会から推薦された花緑委員にも、プラグ苗の仮ポット植え込み等の協力もお願いしています。育成率は年によって増減がありますが、成育した花苗は野村校下の公共施設を中心に無償配布しています。プラグ苗の成育良好な年には、サロンや美化清掃参加者、時には公民館まつりの参加者にも無償提供しています。

今後も校下全域にわたって花いっぱいになることを願っています。校下のグリーンキーパー各位が、各

自治会の花緑委員の方々と協力されて花壇やプランターを利用しながら、高齢者・児童等々三世代が協力しての花緑活動が進むようにも願っています。



写真1 打合せをする神代頭取



写真2 プラグ苗づくり



 お知らせコーナー（6月～8月の主なイベント）
令和4年度花と緑のコンクール

コンクール名	応募締切	審査日
○ 富山県花のまちづくりコンクール		
学校花壇部門	7月11日（月）	7月19日（火）～20日（水）
幼稚園・保育所花壇部門	7月11日（月）	7月21日（木）
プレミアム花壇部門	7月13日（水）	7月29日（金）
花の道	7月13日（水）	7月27日（水）～28日（木）
一般花壇部門	7月20日（水）	8月2日（火）～4日（木）
○ 花と緑の標語コンクール	8月初旬	8月下旬
○ 花と緑のポスター原画コンクール	9月上旬	9月上旬

* 詳細は花と緑の銀行HPでご案内します。

 富山県中央植物園

開花日2日間

- 夜間開園「ゲッカビジン観賞」 6月中旬～7月下旬 19:00～21:30
- 「第7回夏のラン展」 7月9日（土）・10日（日）
- 夏休み子ども企画「オオオニバスに乗ってみよう」
8月5日（金）～7日（日）
- 夜間開園「夜の熱帯植物探検」
8月19日（金）・20日（土） 18:30～21:00
（詳細はHPをご覧ください。お問い合わせは富山県中央植物園へ。
参加には入園料が必要です。）



 県民公園 頼成の森

- 頼成の森「花しょうぶ祭り」 6月10日（金）～19日（日）10日間 9:00～17:00
- 守り人と歩く頼成の森 <カブトムシウォッチング>
7月17日（日） 10:00～11:30 定員：15名 参加費：無料
- 野鳥と昆虫の観察会 7月24日（日） 9:30～12:00 定員：25名 参加費：無料
（詳細はHPをご覧ください。お申し込み・お問い合わせは県民公園 頼成の森へ）

※ お願い！！

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各行事の中止や内容の変更を行う場合があります。ご理解の上、各行事の詳細はその都度、担当部署へお問い合わせ下さい。
- 「3密回避やマスク着用、手洗い・消毒」に努め、新型コロナウイルスを乗り越えましょう！



編集発行 公益財団法人 **花と緑の銀行**
〒939-2713 富山市婦中町上轡田42
TEL 076-466-2425 FAX 076-465-5923
<https://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園
〒939-2713 富山市婦中町上轡田42
TEL 076-466-4187 FAX 076-465-5923
<https://www.bgtym.org/>

県民公園頼成の森
〒939-1431 砺波市頼成156
TEL 0763-37-1540 FAX 0763-37-1450
<https://www.bgtym.org/ranjyounomori/>



花と緑の銀行だより 223号
発行日 令和4年(2022年)5月
再生紙を使用しています。